

# 長崎武利町長

## 3期目がスタート！

「今後の取り組み」「人物像」に迫る



### ▼これまでの町政運営と今後の展望について

**Q.** 2期目は新設小・中学校の建設など大きな事業がたくさんありました。印象的な事業は何でしたか？

**A.** 急激な人口増加にいかに対応するかが一番の課題でした。新宮北小学校建設の際には、国道495号とJRをまたぐ歩道橋を整備し、緑ヶ浜区の小学校区を変更させていただきました。また、新宮東中学校は、用地取得への地権者の協力なしに建てることができませんでした。地権者のみなさんのご理解・ご協力をいただいたおかげで、無事、開校することができました。この場を借りて、改めてお礼申し上げます。

さらに、町立幼稚園・小中学校にエアコンを設置し、中学校で自校式の完全給食を実施できたことも、教育環境の向上につながったと思っています。

**Q.** 3期目はどのような町政運営をめざしますか？

**A.** ○「新宮ふれあいの丘公園」の整備

人口増加に伴うハード整備は2期目までにほぼ完了しました。3期目は継続事業として、災害時の活動拠点となる「新宮ふれあいの丘公園」の整備を行います。隣接する新宮東中学校の設備と併せて、災害時には外部からの支援を受け入れつつ、町内全

域の被災支援を展開するための活動拠点とする計画です。また、公園と併せて元気な高齢者や子どもたちの交流拠点となる施設を建設し、防災のみならず、日ごろからスポーツや生きがいづくりの拠点として活用していただく予定です。

私自身、高齢です。自ら先頭に立ち、高齢者が元気よく働き、趣味を楽しめるよう、環境を整備していきます。

○東部地域、相島の移住・定住に向けて

生活の利便性が高い新宮町ですが、東部地域や相島では過疎化が深刻化しています。自然や農水産物の魅力を存分に生かした地域振興策が必要です。それぞれの地域で活性化をめざして住民を中心とした組織が立ち上がりました。相島では漁村留学が2年目を迎え、子どもたちが元気に通学しています。今後は、行政と協働で移住・定住につながる施策を実施していきます。

現在、第6次総合計画を策定中です。これからのまちづくりのキーワードは、住民が互いに支え合う「地域共生」と、人口減少や超高齢社会に対応できる「持続可能なまちづくり」だと思っています。

みなさんにも、新宮町の豊かな自然環境の保全・文化伝統の継承者として、行政のパートナーになっていただきたいと思います。

## ▼長崎町長ってどんな人？

Q. 今の新宮町子どもたちは、町長の子ども時代と住環境が大きく異なります。町長は、どのような子ども時代を過ごしていましたか。

A. 私は現在の福岡市東区奈多で生まれ、子どもときは新宮中学校に野球をしにきたりしていました。湊坂なども当然整備されておらず、アケビやヤマモモなどがあつたり、動物が突然出てきたり、今とは大きく異なりますね。

そんななかで、友だちとチャンバラごっこをしたり、いちご畑から甘い香りが漂っていたり、懐かしいですね。

Q. 町長になる前はどのような活動をしていましたか？

A. 町議会議員を20年、その間、保護司(保護観察を受けた人の更生を支える人)もしていました。やんちゃ盛りの子をどう導くべきか悩んだりもしましたが、成人式でしっかりと頑張っている姿を見たときは感動しました。

自営業の経験もあり、「人に負けない、地域一番をめざす」という商人魂は、町長の仕事にも通じる部分があります。

Q. 新宮町の好きなところ、伸ばしていきたいところを教えてください。

A. かつて福岡市との合併の声があがり、それを期待して転入してきた人もいました。

合併はしなかったものの、新宮町は海と山が融合する豊かな自然環境と、交通の利便性に恵まれており、住民の満足度が向上しているのではないかと思っています。今後ますます、白砂青松の新宮海岸、立花山、相島など、地域のみなさんと協働して良さを伸ばしていきたいですね。子どもから大人まで楽しめる、自然あふれる便利なまちづくりをすすめていきます。

○町民のみなさんにメッセージをお願いします。

現在の新宮町は、古くからある地区と中心市街地整備などにより誕生した新しい地区があります。そのようななかで、例えばスポーツ大会では、新しい地区の住民が加わり、一層の盛り上がりを見せるようになるなどさまざまな地区の住民間の交流ができています。

新宮町は、もっともっと伸びるがある町です。地域行事や行政懇談会などを通じて、住民一人ひとりと接し、まちづくりの声を届けていきたいですね。

